

氏名	ADAM STRANGE
ヨミガナ	アダム ストレンジ
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	博音第264号
学位授与年月日	平成27年3月25日
学位論文等題目	〈論文〉 デジタル楽曲配信におけるジャケット画像の関係 ーモバイル環境下でのクロス・モーダル研究ー

論文等審査委員

（主査）	東京藝術大学	准教授	（音楽学部）	丸井 淳史
（副査）	東京藝術大学	教授	（音楽学部）	亀川 徹
（副査）	東京藝術大学	教授	（音楽学部）	西岡 龍彦
（副査）	東京藝術大学	教授	（音楽学部）	山下 薫子

（論文内容の要旨）

モバイルデバイス環境における、音源の選好、消費に対し、アルバムのジャケット画像が有意に影響を与えるか調査するために、複数の部分からなる主観評価実験を行った。

最初の3つの実験において、66人の参加者を3つのグループに分け、1つのグループにはアルバムのジャケット画像のみ、もう1つのグループには音楽のみ、最後のグループには音楽と、それに付随するジャケット画像の両方を呈示した。12種類の音源が、ポップス、クラシック、そしてジャズから選択された。参加者は、典型的なモバイルの音楽聴取状況をシミュレーションするためにデザインされた、インターネット上のGUIを各自のスマートフォンで操作し、選好度、購買欲、そして再生された音源を過去に聴いたことがあるか、または似た音源を聴いたことがあるかを答えた。分散分析の結果、12種類の音源のうち、11種類において、どのグループ間の選好度にも有意差は現れなかった。

実験2では、実験1の結果を確認するため、新たに12種類の音源とジャケット画像を用い、11人の参加者による評価が行われた。その後、参加者は抽出段階に参加し、音源とジャケット画像の関連性を描写する80種類の特性を抽出した。次に、4人からなるパネルによって、29種類の独特な特性に纏められ、それらを用いて12種類の音源とジャケット画像が評価された。その結果を、再び分散分析、そしてクラスター分析によって分析した。実験2の結果、実験1における3つのグループの選好度との間に有意差は見られず、またパネルによる音源とジャケット画像の間の特性の評価にも、有意差は見られなかった。更にクラスター分析によって、元々の29種類の評価尺度が、8種類の代表する尺度に減らせることを示唆している。

実験3では、実験2で構成されたパネルが上の8種類の尺度を用い、6種類の音源と、30枚の写真を評価した。更に参加者は、それぞれの音源に対して適合すると感じた写真を写真群から選択した。36枚の画像と、6種類の音源の相関係数を算出し、選択された写真と、元のジャケット画像を比較した。元のジャケット画像と選択された写真は、音源に対して比較的高い相関を見せた。共分散を用いて分散分析を行い、選択された写真が選択されなかった写真よりも、音源に対して高い共分散を見せることが確認された。結果、6曲のうち4曲において統計的に有意となり、2曲においては差に有意傾向が見られた。最後に、6曲と36枚の画像から得たデータを用い、主成分分析を行った。その結果、曲とジャケット画像は3つの次元で評価されており、先行研究の結果と一致した。

結論として、アルバムのジャケット画像は全体的に、音楽の特性、また選好度を強く表象していると言える。しかし、ジャケット画像は曲の選好度に対して有意に影響を与えはしない。むしろ、ジャケット画像は人が音楽を聴く前に、共有された3つの次元に関する情報を伝える、伝達媒体として機能する。この機能を有するジャケット画像は、この情報を実際の試聴より速く、設備は小規模で、制限も少なく伝達できる。ジャケット画像が音楽作品全体の芸術的価値における役割が小さかったとしても、音楽の受容性の発展や顕在化に重要な役割を担っていることが、本研究により明らかになった。

#### (総合審査結果の要旨)

これまでレコードやコンパクトディスクで販売されていた音楽コンテンツは、インターネットの普及により iTunes Music Store に代表されるネット上の仮想販売店から購入できるようになった。特に日本国内では高速な携帯電話通信網が隔々まで行き渡っていることもあり、どこにいても音楽コンテンツの試聴及び購入が可能になっている。LPやCDでは当たり前であったジャケットやライナーノーツといった紙媒体はオンライン販売ではなくなったが、いまだに画面上にはジャケット画像が陳列されている。このことから申請者は、実際に楽曲を試聴せずとも、楽曲のもつ音楽的要素をジャケット画像からある程度受け取ることが可能であり、そのためにジャケット画像がいまだ音楽販売の重要な役割を担っているのではないかとの仮説を立てた。本論文は、その仮説を複数の実験を通して検証・考察したものである。

実験の再現性を高めようとするあまり過度に厳密な実験計画をすると、実験結果が一般社会に通用しないことがある。これを危惧した申請者は、本研究においては実験結果の厳密さを多少犠牲にしても一般化可能な実験をすることを目標として、実際に実験参加者自身が所有するスマートフォンを用いて自由な場所及び日時に行われる実験をはじめとする合計三つの実験を計画・実行した。結果、ジャケット画像は音楽の特性や好みを強く表象することが明らかになり、さらに画像は三つの次元（明るさ、激しさ、和風さ）によって音楽の情報を伝達することが明らかになった。

しかし市販の音楽作品においては敢えて音楽と対照的な印象を持つ画像を選択することもあるなど、容易に想像できる例外に対する考察が乏しく、また実験3での実験参加者の少なさは本研究が目指した一般化へのハードルとなっている。全体的な印象の伝達については明らかになったものの、音楽や画像のどの性質が印象伝達に寄与しているのかなど、さらに詳細な検討がなされると研究に深みが増したと考えられる。留学生であるがゆえに日本語での論文執筆に苦勞をしたが、そのことを考え合わせても、実験内容やその分析の詳細な記述が不足しているとともに論理の飛躍が散見されることなどが論文の瑕疵となっている。実験準備や分析時に見せた研究の丁寧さが論文に反映しきれなかったのは残念であった。

一方で、ネット環境での音楽聴取に関する本研究の新規性と重要性は評価されるべきであり、一定の有効性のある結論に到達していることも考えあわせ、課程博士合格の必要条件是満たしたと判断した。